

## 効能又は効果、用法及び用量の一部変更、 使用上の注意改訂のお知らせ

平成 29 年 8 月

劇薬、処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

免疫抑制剤

**タクロリムス カプセル 0.5mg 「サンド」**

**タクロリムス カプセル 1mg 「サンド」**

**タクロリムス カプセル 5mg 「サンド」**

日本薬局方 タクロリムスカプセル

販売  
**サンド株式会社**  
山形県上山市新金谷827-7  
製造販売  
**ニプロファーマ株式会社**  
大阪市中央区道修町2丁目2番7号

### 1. タクロリムスカプセル 0.5mg「サンド」、タクロリムスカプセル 1mg「サンド」

このたび、標記製品の「効能又は効果」及び「用法及び用量」の追加が平成 29 年 8 月 9 日付にて、承認されました。それに伴い、使用上の注意事項の一部を改訂いたしましたので、お知らせいたします。今後のご使用に際しましては、以下の内容をご参照くださいますようお願い申し上げます。

【改訂内容(下線部 \_\_\_\_\_:一部変更承認に伴う変更箇所、下線部 \_\_\_\_\_:自主改訂に伴う追記箇所、  
削除箇所)】

改訂後	改訂前
<p>【警告】</p> <p>(1)～(3) 変更なし</p> <p>(4) <u>ループス腎炎における本剤の投与は、ループス腎炎の治療に十分精通している医師のもとで行うこと。</u></p> <p>(5) 付番のみ変更[(4) 追記により繰下げ]</p>	<p>【警告】</p> <p>(1)～(4) 省略</p>
<p>【効能又は効果】</p> <p>1. ～4. 変更なし</p> <p>5. <u>ループス腎炎（ステロイド剤の投与が効果不十分、又は副作用により困難な場合）</u></p> <p>6. 付番のみ変更[「5. ループス腎炎」の追加により繰下げ]</p>	<p>【効能又は効果】</p> <p>1. ～5. 省略</p>
<p>〈効能又は効果に関連する使用上の注意〉</p> <p>(1)～(3) 変更なし</p> <p>(4) <u>ループス腎炎では、急性期で疾患活動性の高い時期に使用した際の本剤の有効性及び安全性は確立されていない。</u></p> <p>(5)～(6) 付番のみ変更[(4) 追記により繰下げ]</p>	<p>〈効能又は効果に関連する使用上の注意〉</p> <p>(1)～(5) 省略</p>
<p>【用法及び用量】</p> <p>腎移植の場合 変更なし</p> <p>肝移植の場合 変更なし</p> <p>心移植の場合 変更なし</p>	<p>【用法及び用量】</p> <p>省略</p>

改訂後	改訂前
<p>肺移植の場合 変更なし</p> <p>脾移植の場合 変更なし</p> <p>小腸移植の場合 変更なし</p> <p>骨髄移植の場合 変更なし</p> <p>重症筋無力症の場合 変更なし</p> <p>関節リウマチの場合 変更なし</p> <p><u>ループス腎炎の場合</u> <u>通常、成人にはタクロリムスとして 3mg を 1 日 1 回夕食後に経口投与する。</u></p> <p>潰瘍性大腸炎の場合 変更なし</p>	
<p>〈用法及び用量に関連する使用上の注意〉 (1)～(8)変更なし</p> <p>(9) <u>ループス腎炎では、副作用の発現を防ぐため、投与開始 3 ヶ月間は 1 ヶ月に 1 回、以後は定期的におよそ投与 12 時間後の血中濃度を測定し、投与量を調節することが望ましい。また、本剤を 2 ヶ月以上継続投与しても、尿蛋白などの腎炎臨床所見及び免疫学的所見で効果があらわれない場合には、投与を中止するか、他の治療法に変更することが望ましい。一方、本剤により十分な効果が得られた場合には、その効果が維持できる用量まで減量することが望ましい。</u></p> <p>(10)～(11)付番のみ変更[(9)追記により繰下げ]</p> <p>(12)潰瘍性大腸炎では、<u>原則</u>、1 日あたりの投与量の上限を 0.3mg/kg とし、特に次の点に注意して用量を調節すること。 1)～3) 変更なし</p> <p>(13)～(15)付番のみ変更[(9)追記により繰下げ]</p>	<p>〈用法及び用量に関連する使用上の注意〉 (1)～(10)省略</p> <p>(11)潰瘍性大腸炎では、1 日あたりの投与量の上限を 0.3mg/kg とし、特に次の点に注意して用量を調節すること。 1)～3)省略 (12)～(14)省略</p>
<p>【使用上の注意】 2. 重要な基本的注意</p> <p>(1)腎障害の発現頻度が高い（「4. 副作用」の項参照）ので、頻回に臨床検査（クレアチニン、BUN、クレアチニークリアランス、尿中 NAG、尿中 <math>\beta_2</math>ミクログロブリン等）を行うなど患者の状態を十分に観察すること。特に投与初期にはその発現に十分注意すること。なお、関節リウマチ患者では、少数例ながら非ステロイド性抗炎症剤を 2 剤以上併用した症例でクレアチニン上昇発現率が高かったので注意すること。<u>また、ループス腎炎患者では病態の進行による腎障害の悪化もみられるので特に注意すること。</u></p>	<p>【使用上の注意】 2. 重要な基本的注意</p> <p>(1)腎障害の発現頻度が高い（「4. 副作用」の項参照）ので、頻回に臨床検査（クレアチニン、BUN、クレアチニークリアランス、尿中 NAG、尿中 <math>\beta_2</math>ミクログロブリン等）を行うなど患者の状態を十分に観察すること。特に投与初期にはその発現に十分注意すること。なお、関節リウマチ患者では、少数例ながら非ステロイド性抗炎症剤を 2 剤以上併用した症例でクレアチニン上昇発現率が高かったので注意すること。</p>

改訂後	改訂前																		
<p>(2)～(3)変更なし</p> <p>(4)本剤投与中に<b>心不全、不整脈、心筋梗塞、狭心症、心筋障害</b>（心機能低下、壁肥厚を含む）等が認められている（「4. 副作用」の項参照）ので、使用に際しては心電図、心エコー、胸部X線検査を行うなど患者の状態をよく観察すること。<u>なお、ループス腎炎患者では、その基礎疾患である全身性エリテマトーデスにおいて冠動脈疾患の危険因子とされている高脂血症、高血圧症等の疾患を合併する機会が多いことから、それらの疾患の適切な治療を進めながら本剤を投与すること。</u></p> <p>(5)～(12)変更なし</p>	<p>(2)～(3)省略</p> <p>(4)本剤投与中に<b>心不全、不整脈、心筋梗塞、狭心症、心筋障害</b>（心機能低下、壁肥厚を含む）等が認められている（「4. 副作用」の項参照）ので、使用に際しては心電図、心エコー、胸部X線検査を行うなど患者の状態をよく観察すること。</p> <p>(5)～(12)省略</p>																		
<p><b>【使用上の注意】</b></p> <p>3. 相互作用</p> <p>(2)併用注意（併用に注意すること）</p> <table border="1" data-bbox="150 725 782 1921"> <thead> <tr> <th data-bbox="150 725 399 801">薬剤名等</th> <th data-bbox="399 725 608 801">臨床症状・措置方法</th> <th data-bbox="608 725 782 801">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="150 801 399 1883">           抗生物質            エリスロマイシン            ジョサマイシン            クラリスロマイシン            アゾール系抗真菌剤            イトラコナゾール            フルコナゾール            ボリコナゾール等            カルシウム拮抗剤            ニフェジピン            ニルバジピン<sup>注1)</sup>            ニカルジピン            ジルチアゼム 等            HIVプロテアーゼ阻害剤            リトナビル            サキナビル            ネルフィナビル            その他の薬剤            プロモクリプチン            ダナゾール            エチニルエストラジオール            オメプラゾール            ランソプラゾール            トフィソパム            アミオダロン            飲食物            グレープフルーツ            ジュース         </td> <td data-bbox="399 801 608 1883">           変更なし         </td> <td data-bbox="608 801 782 1883">           CYP3A4 で代謝される薬剤又はCYP3A4 の阻害作用を有する薬剤や飲食物との併用により、本剤の代謝が阻害される。         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="150 1883 399 1921">テラプレビル</td> <td data-bbox="399 1883 608 1921">変更なし</td> <td data-bbox="608 1883 782 1921"></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	抗生物質 エリスロマイシン ジョサマイシン クラリスロマイシン アゾール系抗真菌剤 イトラコナゾール フルコナゾール ボリコナゾール等 カルシウム拮抗剤 ニフェジピン ニルバジピン <sup>注1)</sup> ニカルジピン ジルチアゼム 等 HIVプロテアーゼ阻害剤 リトナビル サキナビル ネルフィナビル その他の薬剤 プロモクリプチン ダナゾール エチニルエストラジオール オメプラゾール ランソプラゾール トフィソパム アミオダロン 飲食物 グレープフルーツ ジュース	変更なし	CYP3A4 で代謝される薬剤又はCYP3A4 の阻害作用を有する薬剤や飲食物との併用により、本剤の代謝が阻害される。	テラプレビル	変更なし		<p><b>【使用上の注意】</b></p> <p>3. 相互作用</p> <p>(2)併用注意（併用に注意すること）</p> <table border="1" data-bbox="812 725 1444 1921"> <thead> <tr> <th data-bbox="812 725 1061 801">薬剤名等</th> <th data-bbox="1061 725 1270 801">臨床症状・措置方法</th> <th data-bbox="1270 725 1444 801">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="812 801 1061 1883">           抗生物質            エリスロマイシン            ジョサマイシン            クラリスロマイシン            アゾール系抗真菌剤            イトラコナゾール            フルコナゾール            ボリコナゾール 等            カルシウム拮抗剤            ニフェジピン            ニルバジピン<sup>注1)</sup>            ニカルジピン            ジルチアゼム 等            HIVプロテアーゼ阻害剤            リトナビル            サキナビル            ネルフィナビル            その他の薬剤            プロモクリプチン            ダナゾール            エチニルエストラジオール            オメプラゾール            ランソプラゾール            トフィソパム            アミオダロン            飲食物            グレープフルーツ            ジュース         </td> <td data-bbox="1061 801 1270 1883">           省略         </td> <td data-bbox="1270 801 1444 1883">           本剤は主として薬物代謝酵素CYP3A4にて代謝される。この酵素で代謝される他の薬物との併用により、本剤の代謝が阻害され血中濃度が上昇する可能性がある。         </td> </tr> <tr> <td data-bbox="812 1883 1061 1921">テラプレビル</td> <td data-bbox="1061 1883 1270 1921">省略</td> <td data-bbox="1270 1883 1444 1921"></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	抗生物質 エリスロマイシン ジョサマイシン クラリスロマイシン アゾール系抗真菌剤 イトラコナゾール フルコナゾール ボリコナゾール 等 カルシウム拮抗剤 ニフェジピン ニルバジピン <sup>注1)</sup> ニカルジピン ジルチアゼム 等 HIVプロテアーゼ阻害剤 リトナビル サキナビル ネルフィナビル その他の薬剤 プロモクリプチン ダナゾール エチニルエストラジオール オメプラゾール ランソプラゾール トフィソパム アミオダロン 飲食物 グレープフルーツ ジュース	省略	本剤は主として薬物代謝酵素CYP3A4にて代謝される。この酵素で代謝される他の薬物との併用により、本剤の代謝が阻害され血中濃度が上昇する可能性がある。	テラプレビル	省略	
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																	
抗生物質 エリスロマイシン ジョサマイシン クラリスロマイシン アゾール系抗真菌剤 イトラコナゾール フルコナゾール ボリコナゾール等 カルシウム拮抗剤 ニフェジピン ニルバジピン <sup>注1)</sup> ニカルジピン ジルチアゼム 等 HIVプロテアーゼ阻害剤 リトナビル サキナビル ネルフィナビル その他の薬剤 プロモクリプチン ダナゾール エチニルエストラジオール オメプラゾール ランソプラゾール トフィソパム アミオダロン 飲食物 グレープフルーツ ジュース	変更なし	CYP3A4 で代謝される薬剤又はCYP3A4 の阻害作用を有する薬剤や飲食物との併用により、本剤の代謝が阻害される。																	
テラプレビル	変更なし																		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																	
抗生物質 エリスロマイシン ジョサマイシン クラリスロマイシン アゾール系抗真菌剤 イトラコナゾール フルコナゾール ボリコナゾール 等 カルシウム拮抗剤 ニフェジピン ニルバジピン <sup>注1)</sup> ニカルジピン ジルチアゼム 等 HIVプロテアーゼ阻害剤 リトナビル サキナビル ネルフィナビル その他の薬剤 プロモクリプチン ダナゾール エチニルエストラジオール オメプラゾール ランソプラゾール トフィソパム アミオダロン 飲食物 グレープフルーツ ジュース	省略	本剤は主として薬物代謝酵素CYP3A4にて代謝される。この酵素で代謝される他の薬物との併用により、本剤の代謝が阻害され血中濃度が上昇する可能性がある。																	
テラプレビル	省略																		

改訂後			改訂前		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
グラゾプレビル	本剤の血中濃度が上昇し、腎障害等の副作用が発現することがある。本剤血中濃度のモニターを行い、必要に応じ減量・休薬等の処置を行う。	グラゾプレビルのCYP3A阻害作用により、本剤の代謝が阻害される。	オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル	オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル (25mg・150mg・100mg) 1日1回服用後、本剤を併用したとき、本剤のAUCが86倍に上昇したとの報告がある。本剤血中濃度のモニターを行い、必要に応じ減量・休薬等の処置を行う。	リトナビルのCYP3A4阻害作用による。
オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル	オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル (25mg・150mg・100mg) 1日1回服用後、本剤を併用したとき、本剤のAUCが86倍に上昇したとの報告がある。やむを得ない場合を除き併用は避けること。やむを得ず併用する場合には、本剤の血中濃度のモニタリング及び投与量・投与間隔の調整を行うとともに、患者の状態を慎重に観察し、副作用発現に十分注意すること。	リトナビルのCYP3A4阻害作用により、本剤の代謝が阻害される。	以下、省略		
以下、変更なし			注1)～注2)省略		
<b>【使用上の注意】</b> <b>4. 副作用</b> (1) 重大な副作用 (頻度不明) 1) 急性腎障害、ネフローゼ症候群: 急性腎障害、ネフローゼ症候群があらわれることがあるので、頻回に臨床検査 (クレアチニン、BUN、クレアチニンクリアランス、尿蛋白、尿中NAG、尿中 $\beta_2$ ミクログロブリン等) を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量・休薬等の適切な処置を行うこと。 2)～17) 変更なし			<b>【使用上の注意】</b> <b>4. 副作用</b> (1) 重大な副作用 (頻度不明) 1) 急性腎不全、ネフローゼ症候群: 急性腎不全、ネフローゼ症候群があらわれることがあるので、頻回に臨床検査 (クレアチニン、BUN、クレアチニンクリアランス、尿蛋白、尿中NAG、尿中 $\beta_2$ ミクログロブリン等) を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量・休薬等の適切な処置を行うこと。 2)～17) 省略		

改 訂 後	改 訂 前
<p>【使用上の注意】 7. 小児等への投与 (1) 変更なし (2) 心移植、肺移植、脾移植、小腸移植、重症筋無力症、関節リウマチ、<u>ループス腎炎及び潰瘍性大腸炎</u>では小児等に対する安全性は確立していない（心移植、肺移植、脾移植、小腸移植、<u>重症筋無力症及び潰瘍性大腸炎</u>では使用経験が少なく、関節リウマチ及び<u>ループス腎炎</u>では使用経験がない）。</p>	<p>【使用上の注意】 7. 小児等への投与 (1) 省略 (2) 心移植、肺移植、脾移植、小腸移植、重症筋無力症、関節リウマチ及び潰瘍性大腸炎では小児等に対する安全性は確立していない（心移植、肺移植、脾移植、小腸移植及び重症筋無力症では使用経験が少なく、関節リウマチ及び潰瘍性大腸炎では使用経験がない）。</p>
<p>【使用上の注意】 10. その他の注意 (1)～(2) 変更なし (3) <u>ループス腎炎患者では、28週投与によりクレアチンクリアランスの低下がみられている。28週を超える臨床試験成績は少なく、長期投与時の安全性は確立されていない。</u> (4)～(5) 付番のみ変更[(3)追記により繰下げ]</p>	<p>【使用上の注意】 10. その他の注意 (1)～(4) 省略</p>

### 【改訂理由】

●【効能又は効果】、【用法及び用量】の承認事項の一部変更承認に基づき改訂いたしました。

- ・【効能又は効果】、【用法及び用量】の承認事項の一部変更申請を行い、「ループス腎炎（ステロイド剤の投与が効果不十分、又は副作用により困難な場合）」についての効能又は効果、用法及び用量が追加承認されましたので、「効能又は効果に関連する使用上の注意」、「用法及び用量に関連する使用上の注意」、「重要な基本的注意」、「小児等への投与」、「その他の注意」の項を追記しました。

●タクロリムス製剤の情報に基づき改訂いたしました。

- ・「3. 相互作用：(2)併用注意」の項に薬剤名を追記、「用法及び用量に関連する使用上の注意」、「3. 相互作用」、「4. 副作用：(1)重大な副作用」、「7. 小児等への投与」の項目を一部変更しました。

## 2. タクロリムスカプセル5mg「サンド」

このたび、標記製品の使用上の注意事項を改訂（自主改訂）いたしましたので、お知らせいたします。今後のご使用に際しましては、以下の内容をご参照くださいますようお願い申し上げます。

【改訂内容(下線部：自主改訂に伴う追記箇所、      ：削除箇所)】

改 訂 後	改 訂 前
<p>〈用法及び用量に関連する使用上の注意〉 (1)～(8) 変更なし (9) 潰瘍性大腸炎では、<u>原則</u>、1日あたりの投与量の上限を0.3mg/kgとし、特に次の点に注意して用量を調節すること。 1)～3) 変更なし (10)～(12) 変更なし</p>	<p>〈用法及び用量に関連する使用上の注意〉 (1)～(8) 省略 (9) 潰瘍性大腸炎では、1日あたりの投与量の上限を0.3mg/kgとし、特に次の点に注意して用量を調節すること。 1)～3) 省略 (10)～(12) 省略</p>

改訂後			改訂前		
<b>【使用上の注意】</b> <b>3. 相互作用</b> <b>(2) 併用注意（併用に注意すること）</b>			<b>【使用上の注意】</b> <b>3. 相互作用</b> <b>(2) 併用注意（併用に注意すること）</b>		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗生物質 エリスロマイシン ジョサマイシン クラリスロマイシン アゾール系抗真菌剤 イトラコナゾール フルコナゾール ボリコナゾール等 カルシウム拮抗剤 ニフェジピン ニルミジピン <sup>注1)</sup> ニカルジピン ジルチアゼム 等 HIVプロテアーゼ阻害剤 リトナビル サキナビル ネルフィナビル その他の薬剤 ブロモクリプチン ダナゾール エチニルエストラジオール オメプラゾール ランソプラゾール トフィソパム アミオダロン 飲食物 グレープフルーツ ジュース	変更なし	<u>CYP3A4で代謝される薬剤又はCYP3A4の阻害作用を有する薬剤や飲食物との併用により、本剤の代謝が阻害される。</u>	抗生物質 エリスロマイシン ジョサマイシン クラリスロマイシン アゾール系抗真菌剤 イトラコナゾール フルコナゾール ボリコナゾール 等 カルシウム拮抗剤 ニフェジピン ニルミジピン <sup>注1)</sup> ニカルジピン ジルチアゼム 等 HIVプロテアーゼ阻害剤 リトナビル サキナビル ネルフィナビル その他の薬剤 ブロモクリプチン ダナゾール エチニルエストラジオール オメプラゾール ランソプラゾール トフィソパム アミオダロン 飲食物 グレープフルーツ ジュース	省略	本剤は主として薬物代謝酵素CYP3A4にて代謝される。この酵素で代謝される他の薬物との併用により、本剤の代謝が阻害され血中濃度が上昇する可能性がある。
テラプレビル	変更なし		テラプレビル	省略	
グラゾプレビル	<u>本剤の血中濃度が上昇し、腎障害等の副作用が発現することがある。本剤血中濃度のモニターを行い、必要に応じ減量・休薬等の処置を行う。</u>	<u>グラゾプレビルのCYP3A阻害作用により、本剤の代謝が阻害される。</u>			

改訂後			改訂前		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル	オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル (25mg・150mg・100mg) 1日1回服用後、本剤を併用したとき、本剤のAUCが86倍に上昇したとの報告がある。 <u>やむを得ない場合を除き併用は避けること。</u> <u>やむを得ず併用する場合には、本剤の血中濃度のモニタリング及び投与量・投与間隔の調整を行うとともに、患者の状態を慎重に観察し、副作用発現に十分注意すること。</u>	リトナビルのCYP3A4阻害作用により、 <u>本剤の代謝が阻害される。</u>	オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル	オムビタスビル・パリタプレビル・リトナビル (25mg・150mg・100mg) 1日1回服用後、本剤を併用したとき、本剤のAUCが86倍に上昇したとの報告がある。 <u>本剤血中濃度のモニターを行い、必要に応じ減量・休薬等の処置を行う。</u>	リトナビルのCYP3A4阻害作用による。
以下、変更なし			以下、省略		
注1)～注2) 変更なし			注1)～注2) 省略		
<b>【使用上の注意】</b> <b>4. 副作用</b> (1) 重大な副作用 (頻度不明) 1) <b>急性腎障害、ネフローゼ症候群</b> : 急性腎障害、ネフローゼ症候群があらわれることがあるので、頻回に臨床検査 (クレアチニン、BUN、クレアチニンクリアランス、尿蛋白、尿中NAG、尿中 $\beta_2$ ミクログロブリン等) を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量・休薬等の適切な処置を行うこと。 2)～16) 変更なし			<b>【使用上の注意】</b> <b>4. 副作用</b> (1) 重大な副作用 (頻度不明) 1) <b>急性腎不全、ネフローゼ症候群</b> : 急性腎不全、ネフローゼ症候群があらわれることがあるので、頻回に臨床検査 (クレアチニン、BUN、クレアチニンクリアランス、尿蛋白、尿中NAG、尿中 $\beta_2$ ミクログロブリン等) を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量・休薬等の適切な処置を行うこと。 2)～16) 省略		
<b>【使用上の注意】</b> <b>7. 小児等への投与</b> (1) 変更なし (2) 心移植、肺移植、膵移植、小腸移植及び潰瘍性大腸炎では小児等に対する安全性は確立していない ( <u>使用経験が少ない</u> )。			<b>【使用上の注意】</b> <b>7. 小児等への投与</b> (1) 省略 (2) 心移植、肺移植、膵移植、小腸移植及び潰瘍性大腸炎では小児等に対する安全性は確立していない ( <u>心移植、肺移植、膵移植及び小腸移植では使用経験が少なく、潰瘍性大腸炎では使用経験がない</u> )。		

**【改訂理由】****●タクロリムス製剤の情報に基づき改訂いたしました。**

- ・「3. 相互作用：(2)併用注意」の項に薬剤名を追記、「用法及び用量に関連する使用上の注意」、「3. 相互作用」、「4. 副作用：(1)重大な副作用」、「7. 小児等への投与」の項目を一部変更いたしました。

改訂内容につきましては、日本製薬団体連合会発行の「DRUG SAFETY UPDATE 医薬品安全対策情報(DSU) No.262 並びに No.263」に掲載されます。

改訂添付文書情報並びにお知らせ文書につきましては、弊社ホームページの「医療関係者向け情報」(<http://www.sandoz.jp/medical/index.php>)に掲載されます。

**【資料請求先】**

サンド株式会社 カスタマーケアグループ  
フリーコール (0120) 982-001 FAX(03) 6257-3633  
受付時間 9:00～17:00 (土・日、祝日及び当社休日を除く)